

佐渡の皆さん、 よろしくお願ひします

～地域の魅力をサポートします～
われら地域おこし協力隊

着任のごあいさつ

さどの島銀河芸術祭担当（両津地区と市全域）**本山 裕久**

佐渡の方々の佐渡愛は凄まじいものであります。けれどもそれに負けないくらい、佐渡の有名な観光名所ではない、知られざる、そのタイミングでしかみられない“異なる”佐渡の素晴らしさを見つけ出したいのです。

佐渡島民になろうと考えたきっかけは『さどの島銀河芸術祭2019』です。

実は、地域おこし協力隊は2度目なんです。前任地の長野県大町市では、信濃大町地域おこし協力隊として、「北アルプス国際芸術祭2017」に携わっておりました。この佐渡市でも「さどの島銀河芸術祭」を担当します。

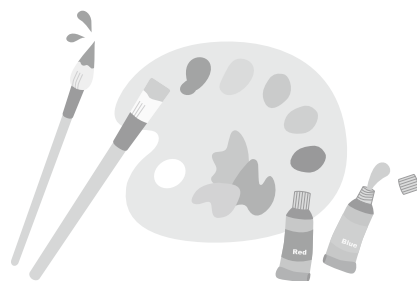
佐渡の素晴らしさ＝アートであること、この感動を皆さまと共有し、発信していく仕事を務めさせていただきます。

また、とっておきのおススメの場所がありましたら、どうかこっそり教えてください！

☎地域振興課地域振興係 ☎63-4152



両津夷の古い商家にて



市立病院から こんにちは

両津病院 本間臨床検査技師長

「目に見えないウイルスと私たち」

例年であればインフルエンザも終息し、ほっと一息といったところでしようか。本来ならば良い季節を迎えるはずなのに、コロナウイルスの脅威に脅かされる毎日になるとは、誰も想像できなかったことと思います。

では、インフルエンザも同じウイルスであるのになぜ15分程度の短時間で検査が行われるのでしょうか？

テレビでは毎日のように感染症の第一人者である先生方を迎えての報道番組が組まれたことによつて、不要不急の外出を控えること、マスクの着用、手洗いの励行など感染を抑える方法が自然と身についたのではないのでしょうか。また、PCRなどという聞き慣れない言葉も多々耳にされたと思います。

インフルエンザの検査は、一般的に抗原抗体反応という方法を使用した迅速キットが用いられます。以前はインフルエンザも診断に時間がかかりましたが迅速キット開発の進歩により、流行期には短時間で多くの患者さんの結果を出せるという恩恵が得られるようになりました。また、RSウイルス、アデノウイルス、マイコプラズマなど小児科でおなじみの疾患も同様なキットで検査が行えます。

ご存知の方も多いと思いますが、PCRは検査法の一つです。これはコロナウイルスの核酸という部分を増殖させる検査であり、専用の機械、また検査をするための安全な環境、そして感染の危険性もありますので熟練した検査者のいる施設でのみ行われます。ですので、検査施設が少ないこと、また検査の特性上時間がかかることに

コロナウイルスの簡易検査も現在多くのメーカーで日夜を問わず開発が進められており、現状を打開する一歩になるのではないかと期待しています。一日でも早くコロナウイルスが終息し、全世界が平和であることを心から願っております。

